

# 栽培漁業技術開発事業（要約）

## （ハマフエフキ）

多和田真周・藤本 裕<sup>\*</sup>・大城信弘

與那嶺盛次・友利昭之助

本研究の詳細は昭和58年度栽培漁業技術開発事業（昭和59年3月）において報告したのでここでは成果の要約と残された問題点だけを記す。

### 1. 成果の要約

- 1) ハマフエフキの産卵は1983年1月17日から開始され、同年11月20日に終了した。産卵開始日の水温は20.1℃、同終了日は23℃であった。通算の産卵日数は308日、産卵回数は187回、総採卵数は $98.687 \times 10^3$ 粒、浮上卵率平均は78.4%であった。
- 2) マガキ幼生を初期餌料とした飼育では20~40個/mlの投与密度で日令8~9までの歩留りは9.9%、その後沖出しまでの飼育歩留りは1.1%であった。減耗要因としてはマガキ幼生の投与密度の低さとワムシへの切換え時期が早かったものと考えられる。
- 3) 選別ワムシによる飼育では生残率が日令4で56.8%、日令6で10.6%、日令10で1.1%に低下し日令42における取り揚げ尾数は1,500尾、平均全長56.8mm、歩留りは0.1%の飼育結果であった。
- 4) 中間育成については12,800尾（平均全長14.8mm）を小割生簀2面に沖出しし、No.1生簀については46日の飼育日数で平均全長40.0mm、歩留り43.3%、No.2生簀については90日の飼育日数で平均全長108.0mm、歩留り20.7%であった。

### 2. 残された問題点

- (1) マガキ幼生の投与密度の検討。
- (2) S型ワムシからの小型ワムシの大量選別方法およびワムシ卵のみの大量採集方法の検討。
- (3) マガキ幼生と選別ワムシの併用投餌方法の検討。
- (4) 沖出し直後の大量減耗の防止。

---

\* 現：栽培漁業センター